

地域課題解決に向けたドラムサークルによる チームビルディングの実証的研究

事業代表者 教育学部・教授・長谷川 万由美

1. 事業の目的・意義

地域の課題解決のための手法として、ファシリテーターによる話し合いの場の設定や、イベントなどを一緒につくりあげる方法をとることが多い。しかし、そのような機会は時間もかかり、人により満足の度合いも多様である。話し合いやイベントが潤滑に進行するには、参加者が協力しようという気持ち、一団として取り組もうとする気持ちが最も大事であり、そのためのチームビルディングが不可欠である。

チームビルディングのとりかかりとしてアイスブレイクに取り組まれることが多いが、海外では音楽を通じたチームビルディングが取り込まれており、その中でもドラムサークル(打楽器を輪になって演奏する)は短時間での一体感が得られるだけでなく、心身のリフレッシュなど参加者個人の効用も高い。また言語を媒介とせず、叩くという原始的な行為のみを用いるため、年齢、性別、障害の有無等を問わず参加しやすく、チームビルディングのユニバーサルデザインともいえる。本研究は先進事例からその手法を学びつつ、地域社会で実践することにより日本での応用に向けた基本的なデータを蓄積することを目的とする。

2. 事業内容

本年度は、上記のような目的を意識しながら①ドラムサークルを行うドラムサークルファシリテーターの養成、②地域と連携してのドラムサークルの実施を行った。また、そのために必要な実施に向けてレンタルなどでなく自力でドラムサークルの実施ができるように③として最低限の打楽器の購入を行った。全員分のドラムが必要なわけではないが、ある程度の楽器類の整備は必要となる。

本事業実施についてはドラムサークルファシリテーター協会理事で REMO 社公認ドラムサークル

ファシリテーターエンドローサーの三原典子氏の助言を頂いた。三原氏より全国での展開事例や海外の状況についてもお聞きしながら事業の内容を検討していった。

3. 事業の進展状況

ここでは事業内容のうち①、②についての進展状況を報告する。

① ドラムサークルファシリテーターの養成

地域でのドラムサークル展開のため、ドラムサークルファシリテーターの養成が必要となる。そのため、今年度は学生を対象として、ドラムサークルファシリテーター養成研修を宇都宮大学体育館で1月12日に行った。受講生は教育学部総合人間形成課程の2年から4年の学生23名で、プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ、地域公共演習Ⅰ・Ⅱを受講する学生および社会福祉ゼミの所属学生であった。講師に三原典子氏を迎えて、三原氏が今回の研修に向けて作成した研修テキスト『ドラムサークルのこと』を使用した(図1)。



図1 研修テキスト

すぐに独り立ちできるスキルを身に着けることは難しいが、学生自身がドラムサークルを楽しみ、学生のチームビルディングを図ることができた。



図 2 研修講師三原典子氏(中央)



図 3 ドラムサークルファシリテーター養成研修の様子

② 地域と連携したドラムサークルの実施

宇都宮大学まなびの森保育園年長クラスを宇都宮大学にお呼びしてドラムサークルを3月2日に実施した(於UUプラザ2階)。ファシリテーターを研修の講師も務めていただいた三原氏に依頼し、研修を受講した学生3名が補助として参加した。また、本事業で購入した打楽器一式を使用して実施した。



図 4 こどもドラムサークルの様子(1)

こどもを対象としたドラムサークルということで、最初からドラムを並べるのではなく、リズム遊びからはじめ、徐々にリズムを使って集団内の一体感を高め、こどもに人気のある楽器が特定のこどもに固定しないように工夫しながら1時間半弱のプログラムを楽しんだ。年長児担任の事後の子どもの様子などを含めた感想としては「こどもが本当にリズムを楽しみ、ひとつとなつて演奏で楽しい時間を過ごすことができた。園に帰る途中や帰ってからいろいろなものでリズムを出した

り、体を動かしたりという余韻を感じる事ができた」ということであった。また補助の学生もそれぞれの役割を分担しながら、プログラムの進行に参加することによって、ドラムサークルの効用を再確認し、さらに自分たちも一緒に演奏することでドラムを楽しむことができたということであった。



図 5 こどもドラムサークルの様子(2)

4. 事業成果

本年度の事業成果としては、ファシリテーター養成研修を行ったことで学生の中でファシリテーターをできる人材が育成できたこと、保育園との連携でドラムサークルを実施することで地域での展開についてのノウハウが得られたこと、ドラムサークルに必要な最低限度の楽器が揃ったため、外部よりレンタルすることなく、ドラムサークルが実施できる環境が整ったことがあげられる。

5. 今後の展望

今年度、ドラムサークルを実施するのに必要最低限の楽器が揃い、ファシリテーター養成も始めたことから、来年度以降、本格的に地域の課題解決のためのチームビルディングの効果や、地域の中での様々な集団におけるリズムの効用についての調査が行えるようにしていきたい。また、ドラムサークルファシリテーションの研修を受けた学生が実践できるような場を作り、その効果の測定も行いたい。課題としては、楽器を使うということから行う場の制約があり、なかなかプログラムが組めないということがあった。本年度の実績を踏まえ、多様な機会を地域に提供できるように努めたいと考える。